



千八百七十八年十二月十四日刊行「ジマッパン」ウキキリ「メル」新聞抄評
條約改正ノ續キ日本圓貨幣ノ事ヲ論ス

大藏省
翻譯課

426



414
A1763



百七十八年十二月十四日刊行「ジャッパン」ウチーキリ

峯源次郎 譯

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

イメール抄譯

條約改正ノ續キ日本内債幣ノ事ヲ論ス

第三回

余輩ハ十一月廿六日ニ於テ内閣ノ議決済ナル公告ヲ看讀シ日本銀貨幣ヲ鑄造スルノ主義ニ於テ大藏卿カ慥ナル見込ニ立戻ラレタルヲ賀シ之ニ祝詞ヲ呈セント欲レテ大ニ遲延シタルカ故ニ今聊祝詞トシテ陳述スル所アラシ
去ル三月ニ於テ余輩ハ中外物價新報ニ於テ墨西哥「ドル」ノ日本外國貿易上ニ害ヲ為ス。恰ニ贅痛ノ人々ニ於ケルカ如シト論スルモノナルヲ見テ之ヲ讚成シタリ
且ツ此時ニ當リ余輩ハ香港ニ於テ造幣局ヲ再立シ英國貿易銀

ラ鑄造スヘキノ議論アリテ未ク決セサルヲ故ニ墨西哥「ドル」ニ競争シテ日本銀貨幣ノ支那ニ輸入スルノ好機會ヲ示レテ之ヲ日本政府ニ德懣セリ
其後又五月ニ於テ余輩ハ再々右ノ事件ニ付テ論述シタリ
蓋シ其時ニ當リテ墨西哥「ドル」ト同レ性質ヲ有スル米國貿易銀ニ競争シテ發行シタル重量四百二十「グレイン」ノ日本貿易銀ノ通用ヲ廣メ日本全國ノ通貨ト為サント欲スル大藏卿ノ所存アル由シ世上專バラ評判セシトアリ
右ノ故ニ依リ余輩ハ理財ノ論理ニ基キ或ハ之レヲ前史ニ照シ証ヲ引キ以テ其改畧ノ是ナラサルヲ辨論セリ
然ト雖モ余輩カカヲ尽シ日本人民ノ為ニ論シタルモノハ全ク無益トナリテ終ニ五月ノ廿七日ニ於テ「從來ハ獨リ開港場ニ於

テノミ合法貨幣トシテ取引レタルモノ(重量四百二十「グレイン」ノ貿易銀ヲ通貨トナレ之レヲ日本全國ニ流通セシムヘキノ布令アルヲ見タリ
此ニ於テ余輩ハ談新貨幣(按ヨルニ右ノ貿易銀ヨリ日本金)將來ノ成リ行キヲ前言セリ即チ談新貨幣ハ其実價ヲ定メ割引ヲ以テ買上ケ支那ノ鑛解所ニ運致セラレトテ前言セリ
然リ而シテ日本政府ノ我輩ノ主張スル所ノ議論ヲ用ヒサルヲ嘆息シ再々又チ談主議ヲ論スルヲ止メタリ
蓋シ香港ニ於テ英國造幣局ヲ再設シ確実信任スヘキ貨幣ヲ鑄造シ以テ支那貿易ニ供給セラレントテ改望セリ
爾來數ヶ月ヲ經テ今般余輩ハ倫敦「エコノ」新聞記者カ余輩ノ前ニ陳述シタル論說ヲ保証スルヲ允テ聊カ愁眉ヲ解クヲ得タリ即チ談記者ノ論說ハ左ノ如シ

日本政府ハ其外國貿易ノ通貨トシテ墨西哥「ドル」ヲ使
 用スルニ由リテ生スルノ弊害ヲ避ケンク為ニ貨幣ノ製法
 ヲ改革セントシテ即チ左ノ條目ヲ公ニセリ
 日本貿易銀ニシテ此マテ獨リ開港所ニ於テノミ通貨タリ
 シモノハ以テ未全國ノ通貨タルベシ
 故ニ租税上細ニ於テモ之ヲ約ムルヲ得ヘシ又タ之ヲ受取
 ラサルヘカラス且ツ其他總テ公私ノ取引ニ於テ無差支之
 ヲ取引スヘシト
 且ツ日本貿易銀ヲ鑄造スルニ便利ナランク為又タ左ノ如
 ク日本政府公告セリ
 造幣局ニ於テ受取ルヘキ銀ノ細少ノ重量ハ千「オン」ヨリ
 五百「オン」ニ減スヘシ（按スルニ千「オン」受取リ未タリシ
 五ノ令ヨリ五百「オン」受取ラミ受取ル
 意）又タ之ヲ貨幣ニ鑄造スルカ為メ課賦スヘキ税額（按
 ニス

即チ手 數料（手）ハ百ニ付キ一分ニ減價スヘシ而シテ又タ其受取リ
 タル金銀塊ノ代リニ貨幣ヲ与フルノ時限ハ廿日ヨリ十日
 ニ限キルヘシト
 日本政府ハ斯ノ如ク製法ヲ変化スルハ該貿易銀ヲ十分
 ニ發行スルヲ得テ彼ノ墨西哥「ドル」ヲ「壓倒」シ之ヲ流通
 スル能ハサラシムルニ至ルヘシト改定スルナラン然トモ
 此精察ニ之ヲ按スルニ決シテ此理アルベカラス
其體、何トシテ、墨西哥「ドル」ハ銀ノ四百十六「グレイ
 シ」ヲ含有ス即チ純銀ノ本量ハ十分ノ九ナリ然ルニ日本貨
 易銀ハ銀ノ四百二十「グレイ」ヲ含有ス
 之ニ由テ此レヲ觀ルハ即チ墨西哥「ドル」ト同位ヲ以
 テ流通スルノ貨幣ヲ得ンク為メニ此貨幣ニ与フルニ墨西
 哥「ドル」ヲヨリモ却テ大ナル重量ヲ以テシ且ツ又タ其鑄

七
 歳
 省

造ノ為ニ手数料ヲ拂フガ如キ不利益ノ受ラフモノハ恐
リハサ、カールベシ
但シ右等ノ如ク変化アルヲ以テ見ルニハ東洋ニ於テハ善
良ナル銀貨幣ノ缺乏スルアルヲ知ルニ足レリ(即チ英國貿易
易銀論者ノ英國貿易銀ヲ以テ供給シ能ハサル所以ノ缺乏
ナリ)

然リト雖モ彼ノ英國貿易「ドルラ」ノ主張者ハ造幣局ヲ設立シ
其貿易銀ヲ發行スルノ好機會ヲ失ヘルカ故ニ此等日本國ニ取
リテハ幸福トナレリ

而レテ日本大藏卿ハ大ニ悔悟スル所アリテ余輩ノ前ニ辨論シ
タル主義ヲ採用スルニ至レリ即チ英國貿易銀ノ主張者ハ私立
造幣局ヲ或ル地方銀行ノ保護ヲ以テ香港ニ設立スヘキヲ倫
敦及ヒ及那「エキスプレス」新聞上ニ於テ報知スルノミニシテ其

他之レヲ主張セザリシカ故ニ日本大藏卿ハ数年ノ經驗ヨリシ
テ遂ニ其誤ヲ悟リ其製法ヲ変化スルニ至レリ

蓋シ八月十二日「エコノミスト」新聞ニ於テ余輩ハ左ノ報知ヲ
見ル

「ベルリン」(日耳曼)ノ「ベルマンツアイツング」(日報)ニ掲載スル
所ノ左ノ報知ハ茲ニ引用シテ稍々利益アルヘシ如何トナ
レハ銀ノ需要ニ関スルノ論説ハ今日注意ヲ要スル所ナル
カ故ナリ

即チ其報知ハ左ノ如シ

日本政府ハ後来大ニ銀ヲ買入ル、「アルマ」計リ難シ
如何トナレハ日本政府ハ是マテ流スルタル銀貨幣ノ本
量千分ノ九百二十(九二〇)ナルモ、「ラ」引去テ其銀貨幣ノ
代ニ本量千分ニ付キ九百七十六(〇九一六)ナル銀貨幣ヲ發

行シテ以テ日本國貿易上ノ取引ニ使用セシムルヲ決定セシムル事ナリ

之ニ由テ余輩ハ其新ニ鑄造スルノ銀貨幣ハ米國銀貨幣ノ製法ノ定規ニ從テ鑄造セラルヘキヲ望ムルヲ得ヘシレ而シテ恐ラクハ此銀貨幣ハ一般ノ通貨トナルヘキヲ望ムルヲ得ヘシ

此論說ニ依リテ余輩ハ蓋我英國政府ノ此好機會ニ乘シ東洋ニ於テ造幣局ヲ設立シ英國貿易銀ヲ鑄造セシムルヲ望ムル事ナリ

右「ベ」メン、ウィッソング記者ノ日本貿易銀ハ米國銀貨幣ノ製法ニ依ラスレテ墨西哥銀貨幣ノ製法ノ定規ニ依リテ鑄造サルヘシト云フノ外ハ正實トシテ可ナリ

然リ而シテ日本政府ノ其銀貨幣ヲ鑄造セシムルカ爲ニ要スル所ノ

大ナル銀塊ノ額數ハ如何シテ之ヲ得ヘキカハ余輩ノ之ヲ他日ニ譲リテ今此ニ論スルヲ要セサル所ナリ

縱令日本政府ノ銀塊ヲ要スルモ日耳曼銀ハ「ベルリン」ノ記者ノ既ニ論マレ所ノ如クニハ恐クハ日本國ハ日耳曼銀ヲ日本ニ買入ルハ「アハラサルヘシ

而シテ今日我々茲ニ喋々スヘキモノハ日本銀貨幣ノ歴史ヲ記載シ且ツ大藏卿ノ右ノ貨幣ヲ再ニ鑄造スルノ企ヲ起マレ所以ヲ記載スルニ在リ

大藏卿閣下ノ斯ノ如ク新製法ヲ採用マラレシニ至ルモノハ余輩ノ始メ屢々大藏卿ニ懇懇シタル論說ニ依リテ悟ラレタルモノナリトハ余輩ク敢テ誇ルヲ欲マサル所ナリ是レ蓋シ他ノ勢カアル論者ノ誤議論ヲ敢テ大藏卿ニ懇懇シタルヨリ大藏卿閣下ハ感格ヲ起サレタリト信スルナリ

然ト安氏余輩ハ初メ主張シタル我カ議論ノ今日實地ニ其効驗ヲ得テ採用マラルハニ至ルヲ自ラ賀マサルヲ得サルナリ又シ大蔵卿閣下カ余輩ノ論説ヲ採用セラハヨリシテ生スルノ大利アルカ故ニ大蔵卿閣下ニ日本人民ニ向テ祝詞ヲ呈セサルヲ得サルナリ

日本ニ於テ光陰飛テ如ク偶然發起スルノ事件極テ多端ナリシカ故ニ余輩ノ想像ニ依レハ日本旧銀ノ歴史ヲ記憶スルモノハ蓋シ論者ノ中ニ甚ク以ナカルベシト知ルナリ

故ニ今其旧銀ノ歴史ヲ茲ニ陳述セントス

抑モ其旧銀ハ初テ大阪ニ於テ鑄造シタルモノナリ是即チ本位貨幣ノ始メニシテ獨リ此時ノ合法貨幣トス

然リト雖モ其後久シカラステ日本政府ハ貪欲ナル米人ノ為ニ欺カレ誤テ金貨ヲ以テ此國ノ合法貨幣トナシ旧銀ノ取引ヲ

獨リ開港所ノニ限ルニ至レリ

開港所ニ於テ其旧銀ヲ取引スルヲアルモ其旧銀ノ表面ニ日本文字ヲ以テノミ價格ヲ銘シ外國文字ヲ用ヒサリシカ故ニ取引上不便ナルヲ窺ヒ甚レ

其後三ヶ年間金貨ノ外國へ濫出スルノ害ヲ得ルノ後一千八百七十四年ニ於テ日本政府ハ初メテ狡猾ナル米人ノ為ニ欺カレテ財政振ハサルヨリシテ其弊害ノ多クヲ覺知シ金貨鑄造ヲ減縮スルニ至レリ

且ツ其時ニ當リ又チ東洋銀行ノ支配人及ヒ大阪造幣局ノ「ダイレクトル」マジヨール、キンドル兩氏ノ誠實ノ意見ニ依リテ日本政府ハ一千八百七十四年三月十七日ニ於テ其旧銀ノ模形ヲ改正シ即チ今日該山銀ノ表面ニ銘スル通り英字ニ日本兩國ノ文字ヲ以テ其重量及ヒ交マ物ヲ表記マリ

諛田銀タルヤ其重量ハ四百十六グレインニシテ其純銀ノ本量ハ九百分ト表セリ

然ラト雖其後墨西哥造幣局ノ逐次ニ其貨幣ノ重量ヲ増加シ四百十六グレインヨリ四百十七グレイン百分ノ八十二至タリタルク故ニ「マジヨール、キンドル」氏是レニ倣ヒ一「グレイン」半ノ増加ヲ為シ墨西哥貨幣ト同シ重量ノ円銀ヲ鑄造セリ

而シテ實地上四百十六「グレイン」ヲ以テ貨幣重量ノ最下ノ定限トナシ之レヨリ本量ヲ増加シテ四百十七「グレイン」ト百分ノ五十二至レリ

供試貨幣中

銀一千個ニ付其平均ノ重量四百十七「グレイン」ト百分ノ八十二タルヲ見ル故ニ其重量ハ墨西哥貨幣ト同様ニシテ其鞏固ト美麗ナルヲニ至リテハ造ニ之レカ右ニ出タリ

右ノ都合ナルカ故ニ日本造幣局ノ善友ト称スヘキ東洋銀行ハ支那ニ於テ右内銀ノ取引ヲ承知セリ

又タ「ストリ」ト殖民所ノ政府ハ其殖民所ニ於テハ他ノ所ヨリモ商人ハ殊更ニ数多ナリトイヘ「クリントン、ドルラ」(無傷幣)ノ外他ノ貨幣ヲ有セス速ニ日本ノ右新銀田ヲ以テ其合法貨幣トシテ之ヲ取引レ且ツ支那海岸ノ他ノ諸港ニ於テモ之ヲ取引セリ

且ツ又ク廣東ノ總督モ亦ク諛銀田ヲ以テ通貨トナスヘキヲ公告マリ

故ニ若シ香港ニ於テ諛貨幣ヲ通貨トナサント欲スルノ目的ヲ首尾ヨク達スルヲ得ハ諛貨幣ハ支那貿易上ニ於テ一般ノ通貨トナリ必ス墨西哥銀ヲ壓倒スルニ至ルベシ其故如何トナレハ日本円銀ハ唯一一ヶ所ニ限ルヲ云フナリノ

造幣局ニ於テ之ヲ鑄造シ而シテ之ヲ監督スルモノハ債幣鑄造
ノ法方ニ窠上ノ熟練ヲ有スル「マジヨール、キンドル」氏ナルク故
ナリ
且ツ又ターニハ之レカ保証人タル者ハ勢カアル銀行ナレハナ
リ
且ツ又ターニハ其重量交マ物ニ至テハ毎年米英造幣局ニ送リ
テ其試金検査ヲ經テ其定規ニ違ハサルノ保証ヲ得ルカ故ナ
リ
右ノ理合アルヲ以テ必ス墨西哥諸造幣局ノ鑄造スル債幣ヲ壓
倒スルヤ明ナリ
且ツ墨西哥ハ造幣局教多アリテ各其鑄造スル債幣ニ重量交マ
物及「模形等」ニ至リテハ多クノ不同アリテ一轍ニ出テサルノ
不便アリ

然リト雖モ香港鎮臺ヨリ香港貿易會議所ニ付シテ日本円銀ヲ
香港ノ合法貨幣トナスヘキヤ否ヲ議セシメタルニ該會議所ニ
於テハ日本円銀ヲ通貨トナスヲ許サスシテ米國貿易銀ヲ通貨
トナス可キヲ公告シタルハ日本ノ為メ不幸ト云ハサルヲ得サ
ルナリ
去レ氏此時（按スルニ千八百七十四年三月比ヲ云フナラシ）ニ當リ日本政府ノ耐忍カ
アリテ其円銀ノ香港ニ於テ速ニ通貨タラサルヲ忍ブ時ハ其後
香港商人等ハ暫クノ經驗ヲ經テ重量四百二十「グレイン」ノ米國
銀ハ較々重量ノ輕キ墨西哥銀ヲ過倒スル能ハサルヲ確信スル
ニ至ラハ必ス該會議所ハ再議シテ其議決ヲ改正スルニ至ルヘ
シ
如何トナレハ香港商人ガハ尽ク「チョップ」ト（債幣）割截申債幣ヲ取引
セシテ「ソリ」ト（債幣）使用スルヲ好メハナリ

六
債幣

且ツ日本内銀主張者ノ議論ニ依リテ日本内銀ノ其保証ヲ得ル
ト適當スルアラハ必ス香港商人ガ欲スル所ヲ尽ク達スルニ
キ至ルヲ確知スヘキナリ
然リト雖モ斯ノ如ク久レク忍耐シテ時ノ至タルヲ待ツハ日本
國ノ能ハサル所トナリシ
故ニ日本政府ハ忽ニ失望シ日本國雇ノ造幣局ヲイレクトルヲ
放棄シ且ツ其属員ノ過半ヲ免セリ
此失策ノ為メ支那貿易上ニ於テ日本内銀ヲ貿易銀トシテ能ハ
サルニ至リシハ茲ニ論スルヲ要セサルナリ
又タ此時ニ當リ日本政府ノ他ノ失策ト称スヘキモノハサシモ
世間ニ流通セサリシ重量四百二十グレインノ貿易銀ヲ鑄造ス
ルモノ是ナリ其世間ニ流通セサル所以ノモノハ即テ該貨幣ヲ
銀塊トシテ輸出スルモノ夥シクシテ之レカ為メ日本帝國ノ損

通貨ノ貿易
上ノ通貨ナル
ニ

失ハ幾千^百串^付幾百串ト称スルニ至レリ
其後日本政府ハ此不有益ノ貨幣ヲ以テ全國ノ合法貨幣トナサ
ント欲シテ能ハサリシカ故ニ令稍々悔悟スル所アリテ今日ヨ
リシテ四年以前ニ行ヒタル確實ナル改畧ニ立歸リテ先月二十
六日ヲ以テ前製法ニ立歸ルノ布令ヲ出セリ
該布令ニ於テ余輩ノ令此ニ論セサル可カラサルモノアリ即チ
其條目ハ左ノ如シ
明治八年二月ニ於テ三十五号布告ヲ以テ公告シタル貿易
銀ハ鑄造ハ即チ其重量ヲ増加シ模形ヲ改正シタルモノナ
リ以テ未之レテ廢スヘシ
明治七年七月ニ於テ三十四号布告ヲ以テ公告シタル貿易
銀ハ鑄造ヲ即チ其模形ヲ改正シタルモノ再興シ該貨幣
ヲ以テ未通貨トナスベシ

該布告中令鑄造スル貨幣ニ付テ其模形ヲ改ムルモハト稱ス
ル言葉ハ年限ノ變化ノミニシテ該貨幣ニ付テ他ニ模形變化ス
ルヲ指シ示スニ非ス

如何トナレハ余輩ノ前文ニ記載シタルカ如ク其貨幣ノ鑄造ハ
千八百七十四年即チ貨幣ノ價格ヲ日本文字ノミナラス英字ヲ
以テ銘著シタルノ時既ニ之レヲ改正セリ

此故ニ前年ノ貨幣ニ付テ千八百七十四年ト記スルモノヲ新鑄
造ノ貨幣ニ付テ千八百七十八年ト稱スルノミニシテ重量交物
價格及ヒ其様只ニ至リテハ新旧両貨幣共ニ異ナルトナレ

余輩ハ大藏卿ノ感格（見）スル所アリテ千八百七十四年ノ確實ナル
貨幣鑄法ニ立歸ラレタルヲ祝スルニ一部分ト云フ言葉ヲ呈セ
サルヲ得ス（按スルニ確實ナル貨幣鑄法ニ立歸ラレタルハ唯其
一班ノミニ止マリテ未タ其充分カハル所アリト
云フ意ナ

其故如何トナレハ前ニ屢々陳述シタルカ如ク日本銀ヲ以テ

支那貿易ノ通貨トナサンニハ日本政府ノ今日ニ付テ表出スル
保証ヨリハ猶ホ其他ノ保証アラサルヲ得サルカ故ナリ

其保証トナルヘキモノ、中竅モ重大ニシテ且ツ緊要ナルモノ
ハ該銀ヲ以テ支那貿易ニ要用スルニ十分汎山ニシテ不足ナ
キ様ニ連續シテ供給スベキモノ是ナリ

然リト雖モ此主義ニ至リテハ今大藏卿ノ格外ニ注意スル所ニ
シテ且ツ其主義ノ要用ニシテ別ニ一種ノ論說ヲ要スルカ故ニ
余輩ハ之ヲ他日ニ譲リ今此ニ此主義ヲ記サハルヘシ

今自余ノ保証トナルヘキモノヲ考フルニ其竅モ要用ナルモノ
ハ外國ノ雇人ヲ増サハルヘカラサルモノ是ナリ

造幣局長ノ第四ノ年報即チ千八百七十八年六月三十日ニ付テ
終ハルノ會計年度ノ報告ヲ展（ハ）テ之ヲ見ルニ「マジヨール、キン

ドル氏ノ帰國ノ後年々ニ外國雇人ノ負數ヲ減シ今日ニ至リテハ舍密家兼試金者ナル「ゴードランド」氏器械者ノ「マクランガン」氏ノ二人ノミナリ
余輩ハ敢テ云フ令外國雇人ヲ大ニ増加スルニ非サレハ日本田銀ヲ支那貿易ノ通貨トナサント欲スルノ目的ハ再度誤マル「ナキヲ保セサルベシ」
「ゴードランド」氏及「マクランガン」氏ノ為ス所ノ如キ策モ肝要ノ職務ヲ以テ一個ノ人ニ委任スルカ如キハ其良策ニ非マルヤ智者ヲ待テ而シテ後ニ知ラサルナリ
夫レ一個ノ人ニシテ其肝要ノ職掌ヲ預カルハ其人ノ病氣スルカ或ハ他ノ偶然ノ事ヨリシテ度々其職掌ヲ為ス能ハサルノ不利アルベキハ固ヨリ論ヲ待タサルノ「ナレハ」措テ之レヲ論セザルナリ

余輩ハ大蔵卿ニ向テ造幣局各作業課ニ於テ必ス其任ニ思ユルノ才徳ヲ有スル監督者ヲ置カサルヘカラサル「ナレハ」憐憫ス去ル五月ニ於テ余輩ハ諛主義ニ付テ英國造幣局長ニシテ造幣術ニ於テハ今日並ニナキ智能熟練ヲ有スル「フレマンボル」氏ノ確言ヲ引用セリ即チ其言ヲ以テ見ルハ銀塊ヨリシテ貨幣ヲ鑄造スルニ至ル間ニ經歷スルノ各作業ヲ一人ニシテ尽リ之ヲ營為シテ正シク其當ヲ得「ナレハ」如何ニ才能アリテ且ツ勉強ノ人タリ「ナレハ」決シテ能ハサルノ理ナリトナリ
或ハ此論ニ抗シテ異論スルモノアリテ左ノ如ク論作スルモノアルヘシ即チ去ル四年間大阪府ニ於テ「バイクス」ノ検査及「外國」ニ送リテ試金検査シタルモノ尽リ其適當ヲ得テ諸人ノ許ス所タリ故ニ外國人ノ手ヲ借ルヲ要セスト云フモノアルヘシ
日本ノ諸公卿ニ媚ヒ諂フノ倭臣ハ常ニ諛言ヲ以テ諸公卿ヲ具

意ノ如ク左右スレハ必ス右四年間ノ經驗ヲ舉テ以テ外國人ヲ
雇フテ以テ貨幣ヲ正實ニ鑄造スルノ保証トナスニ及ハサルノ
証批トナスヘシ
且ツ今外國人ノ手ヲ借リテ以テ貨幣ヲ鑄造スルハ日本帝國
ノ獨立ヲ害スルモノニシテ之ヲ國家ノ耻辱トシハサルヲ得ス
ト云フベシ
去レモ此陋説ニ對シテ答フルヲ難カラズ余輩ノ今此ニ論スル
所ノ点ハ過去ノ事業如何ニ関ハラス専ラ將來ノ事業ニ関スル
モノナリ
夫レ余輩ノ今此ニ主張スル所ノモノ即チ東洋ニ於テ日本回銀
ヲ以テ墨西哥貨幣ニ代用シ之レヲ貿易上ノ通貨トナスト云フ
トハ其事最モ重大ナルカ故ニ再ヒ失敗ノ憂ヲキ様ニ其害ヲ
禦スルノ方便ヲ尽サハルヘカラサルナリ

三十三

余輩ノ既ニ論シタルカ如ク政府ノ首尾ヨリ其政望ヲ仕遂ケ造
幣局ノ其業ノ成功ヲ將來ニ顯ハスハ確信シテ疑ハコル所ナ
リ去レモ前年ニ於ケル其事業ノ成功ハ其後逐次放棄サレ其賃
教ヲ減シタル外國雇人ノ曾テ拮据セシカニ歸セリ
然リ而シテ此後造幣局ニ於テ為スヘキ回銀鑄造ノ事業ハ前年
為シタル事業ノ比ニ非ラス故ニ其事業ノ大ナルニ比例シテ外
國雇人ノ賃教ヲ増サハルヲ得ス
理論ハ嘗リ措テ實地上ヨリシテ考フルニ及那貿易會議所外國
銀行及ヒ商人ハ日本ノ保証ナキ回銀ヲ以テ其國ノ通貨トナ
スヲ許サハルヘシ
且ツ十分ニ信任スヘキ外國ノ保証ナルニ非ハレハ必ス之レヲ
取引セサルベシ
即チ其外國ノ保証ヲ得ルノ一部分ハ則チ外國雇人ヲ造幣局ニ

用フルニ在リ故ニ内國人ノミヲ以テ内銀ヲ鑄造スルハ其信
ラ外國ニ得ル能ハサルヤ明ナリ
右ノ主義ニ於テハ去ル五月ニ於テ余輩ノ陳述シタル論説ヲ奉
テ以テ再ヒ茲ニ余輩ノ意見ヲ説キ明スヘシ其論説ハ即チ左ノ
如シ

余輩ノ保証主義ニ付キ論スヘキモノハ過去ノ事業如何ニ
係ハラズ外國政府(利之ハ香港殖民所政府ノ如シ)及ヒ外國
商人カノ右亦論ノ日本内銀ニ付キ如何ナル保証ヲ要スル
カノ点ニ在リ
右ノ香港殖民所政府及ヒ商人等ノ保証主義ニ付キ求ムル
亦ノモノ稍々不逞ニシテ頑固ト称スヘキモノアリ然レモ
余輩按スルニ左ノ保証アル中ハ其内銀ヲ許レテ通貨ト為
シテ可ナリ

るた

即チ「バイクス」ノ定時ノ検査ヲ為ス一ナリ
米英ノ造幣局ヨリ試金ノ報告ヲ出タスニナリ
又タ外國銀行ノ右日本貨幣ヲ輸出スルノ時ニ當リ其貨幣
ノ一部分ヲ試金スルモノ三ナリ
又タ日本國ニ於テモ其私利ノ点ヨリ(墨西哥ニ於テモ私利
ノ点ヨリ左ノ如クアリシ)レテ重量交セ物ノ一定不易ナル
バキト四ナリ
又タ内銀供給ノ連續ヲ保ツヘキト五ナリ
然リト雖モ彼ノ外國政府及ヒ商人等ハ此保証ヲ以テ足レ
リトシ日本内銀ヲ以テ其國通貨トナスヘキカ實地上ヨリ
シテ余輩ハ其必ス之ヲ以テ満足セタルヲ知ルナリ日本政
府ノ官吏ハ瑣々タル國ノ榮譽ニ關シテ此大利益ヲ抛擲ス
ルカ如キ愚昧ナルカ思ラリハ右ノ如キ愚想ヲ生スルトハ

アラサルベレ
然レハ外國人ヲ雇ヒ入ルハ、事モ永久之レヲ雇ヒ入ルハ、
ト云フニ非ラス正実ヲ以テ円銀ヲ鑄造スルノ數年ヲ經テ
外國皆右日本ノ善政畧タルヲ確信スルノ後、今日外國
人ノ日本政府ニ對シテ要スルカ如キ保証、之ヲ擲却スベ
キノ時至ルヘシ
然レモ今日ニ於テ、右レ日本政府ハ其目的ヲ達セント欲
セハ外國人ノ要スル所ノ保証ヲ与ヘサルヘカラス其保証
中實モ肝要ナルモノハ新貨幣鑄造ノ初メニ當テ制定シタ
ル條例ヲ久レク保存スヘキモノ是ナリ
余輩ハ日本政府ノ貨幣鑄造ノ工ニ付テハ一定不拔ニシテ
其以前ノ事業ニ於テ失敗ヲ生セシカ如キ不意ノ變化アラ
サルノ保証ヲ得サルベカラス

るたる

如何トナレハ鑄造事業ノ成敗ハ其關係スル所口ツナカラ
スレテ其事業ノ成功ナリト云フヘキ成果ノ一ハ惡シキ通
貨ヲ引キ去テ余輩ノ改良スル所ノ貨幣ヲ以テ通貨トナス
ヲ得ベケレハナリ
而シテ余輩ハ度々貨幣ノ交々物ヲ變化シ或ハ其重量ヲ變
化スルカ如キ目的ノ不愜クナルトト及ヒ好シテ事ヲ變易
スル等ノ如キ日本帝國ノ榮風ノ為ニ其犠牲トナサレサラ
シテ求ムヘキノ権利アルナリ
余輩ハ余輩ノ意見ヲ右ノ如ク操近シ以テ此論題ヲ終フルヘキ
ナリ余輩ノ右ノ如ク此論題ヲ永ク論シタルモノハ其主義ノ関
係スル所口甚タ重大ナルカ故ナリ
又タ日本大藏卿ノ田銀發行ノ目的ヲ違スルニ先達ツテ卿カ為
サ、ルヲ得サルノ他ノ必用ノ保証アリトイヘ氏此論ハ之ヲ他

日ニ譲ツルヲ以テ茲ニ論マサルナリ
且ツ余重ハ因銀鑄造ノ目的ハ善良ノ目的タルヲ明ナルク故ニ
大蔵卿ノ其目的ヲ達スルニ当リ必ス、帝國ノ真正ノ明友ヨ
リ寧モ善キ意見助カヲ得ヘキヲ確信スルナリ

ろす

